

エル・ネット「オープンカレッジ」 News

発行：高等教育情報化推進協議会 東京都港区虎ノ門1-17-1視聴覚ビル内 TEL：03-3591-2186 URL：<http://www.opencol.gr.jp>

エル・ネット「オープンカレッジ」(公開講座)をより利用していただくことを目的として、このたびエル・ネット「オープンカレッジ」ニュースを発行することとなりました。このニュースは、10月1日、11月1日、12月1日、1月1日、2月1日の5回の発行を予定しています。エル・ネット「オープンカレッジ」の最新の放送予定表や、公開講座についてのトピックス、通信技術等に関するQ&Aを内容としています。また、テキスト申込書を添付していますので、ご利用ください。

教育機関の可能性を拓く「エル・ネット」システム

—「オープンカレッジ」等の活用で「新しい世界」の開拓を—

文部省生涯学習局学習情報課長 岡本 薫

「情報化」ということばが頻繁に使われるようになりましたが、このことばは、日本語としてよく意味の分からない用語です。「

化」とは、「高齢化」や「過疎化」などのよ

うに、通常「でなかったものがになること」を意味しますが、「情報化」の場合は、「情報でなかったものが情報になること」という意味では用いられていません。このことばは、社会全体の中のもっと広範で多様な「動き」を意味しているようです。

◆「どこでも」の実現は「独占の崩壊」を意味する

こうした広範な動きの中には、「人々が得る情報の量の拡大」という側面が当然含まれますが、もっと重要なのは、「情報が流れるルートの拡大・多様化」ということです。

このことは、情報の「受け手」とっては、これまで新聞やテレビなどに限られていた情報源が「インターネット」や「衛星通信」などに拡大することを意味しますので、(そのための「道具」や「能力」さえ持っていれば)大変結構なことです。

しかし、情報の「送り手」とっては、「情報提供機能の「独占」が崩れる」という事態が生じつつあります。新聞に頼らなくても「インターネット」を通じてニュースを得られるため、新聞の購読者数が減っているようですし、テレビ局も、CS放送、



CATV、インターネット放送などとの競争を強いられています。

こうした変化は、学校教育・社会教育の世界にも影響しつつあります。例えば、「米国の大学の学位取得が可能な教育プログラムをCSを通じて日本に配信する」という事業が既に行われています。これは、「米国の大学は米国にあり、日本の大学は日本にあり、日本の学生は日本にいるから、日本の学生は当然日本の大学で学ぶ」という「独占」が崩れていることを意味しているのです。

「生涯学習の振興」について、「いつでも、どこでも、だれでも」ということが言われてきましたが、この「どこでも」ということが、情報通信技術の発達・普及によって本当に実現しようとしています。このことは、「学習者」とっては良いことですが、「学習機会提供機関」とっては、「公民館や学校へ行かなくても学べる」ということを意味しており、公民館も学校も「情報化時代における存在意義・役割の見直しを迫られている」と言っても過言ではありません。

◆「新しい世界」の展開をもたらす情報通信技術

しかしその一方で、情報通信技術の発達・普及は、従来からあった教育機関に対して、「新しい世界」や「新しい可能性」をもたらしています。公民館や図書館なども、新しい技術を活用して情報の受信者・発信者となり、その機能を大きく拡大するチャンスを得つつあるからです。例えば一部の図書館は、図書館の外部のデータベースについての利用契

約を結び、地域住民のための情報窓口機能を飛躍的に拡大しつつあるようです。

また、こうした情報通信技術は、規模が小さい教育機関や職員数の少ない施設にも、大きな可能性をもたらすものです。産業・経済の世界でも、いわゆるSOHOなどにより、小規模な企業・事業者が大きく飛躍する可能性が生じていますが、こうしたことは教育の世界でも言えることなのです。

◆「インターネット」と「衛星通信」

ところで、将来あらゆる情報通信技術が極度に発達・成熟化した後は、利用者は「技術の種類」について考える必要はなくなります。今日、例えばヨーロッパに国際電話をするときに、「衛星経由」か「海底ケーブル経由」かということに気にする人は殆どいません。しかし、技術が「発展途上」にあるときには、「適切な技術の選択」ということが必要です。

今もてはやされている「インターネット」は、まだ「通信速度」について大きな問題があります。1.5Mbpsという速度が全国的に実現されるのが2005年ごろと言われていますが、それでも「テレビ会議システム」のようなぎこちない映像を送れるだけで、「講師が実際に語りかける講義」など、フルサイズの動画を送れる6Mbpsという速度(現在のテレビと同じ画質)がインターネットで送れるようになるのは、まだだいぶ先のことになりそうです。

これに対して「衛星通信」は、「オープンカレッジ」などの放送を行っている文部省の「エル・ネット」においても6Mbpsという速度が既に実現されており、高画質の動画を全国に同時配信する上で、当面最も勝れたシステムとなっています。こうした新しい技術の活用方法をそれぞれの機関が積極的に考え、「新しい世界」の開拓を進めていただきたいと思います。

トピックス

公開講座の規模について

青森県総合社会教育センター指導主任
坂本 徹

平成12年2月8日～10日の3日間、青森県総合社会教育センターではエル・ネットオープンカレッジのサテライト会場を引き受けることになり、淑徳短期大学の4コマの公開講座を実施した。各40名程という参加者数は、雪深い厳寒の青森市ということとを考慮すると、かなり多い数と考えていいだろう。これは「福祉社会を考える」というタイムリーなテーマ設定もさることながら、東京と青森を通信衛星で結ぶという画期的な企画に負うところが大きかったと思われる。地方に暮らす私たちに

って、中央との距離を克服する新たな試みでもあった。

想定した講座の規模は毎回とも50名以内という大きさであったが、これは、質疑応答が行われることを考慮したもので、これ以上になると言わば「集団視聴」になってしまい「講座」としての効果は期待できなくなる。実際にやってみた結果からも50名程度が妥当と思われる。使用した機材は、衛星放送用として32インチモニターテレビ1台、フェニックス用として20インチモニターテレビ2台であったが、30～50人程度ならこれで十分である。今回、不思議な現象があった。当日の出席率は、通常、申込者の70%程度になるものだが、今回は毎回とも90%を超えた。しかも、実際の参加者数は申込者数を上まわっており、このことは口コミで誘われた当日参加者が数多くいたことを物語っている。人気のない講座ではこうはいかない。参加した人たちの反応も非常に良かった。事後に行ったアンケートでも満足度は非常に高かったし、ぜひ継続して欲しいという声が多く、講座運営のボランティアをし

たいという申し出まであった。

今回の成功の一番の要因は「双方向」ということであろう。単に通信衛星を用いた放送であれば、各家庭で受信できるならともかく、わざわざ会場に集まるのは億劫である。ビデオ教材として貸し出すほうが現実的だ。質疑応答の存在が、単なるテレビ視聴にとどまることなく、「講座」としての価値を高めたと思われる。質疑応答そのものも良かったが、それ以外の時間、いわゆる「講義」の部分も緊張感が持続していたということに注目したい。つまり、要所に散りばめられた数回の「双方向」が一体感を作りだし講座全体を引き締めた。ラジオ放送も一方通行のメディアだが、電話やFAX、メールを併用することで効果を上げている。番組に参加しているという一体感はリスナーにとって重要なポイントだ。エルネットの可能性は大きいと思うが、そこにラジオの人気番組のような「双方向」が上手く取り入れられることによって、さらに充実したものになることは間違いないと思う。

(エル・ネット「オープンカレッジ」第一年度報告書より)



◆解説

松下電器産業㈱システムソリューション事業部
久保 昭

■衛星受信機・番組受信について

Q: 番組の受信ができません?

◎衛星受信機(IRD)の受信レベルは0～30位の場合

A:

- ①: 放送は「A-1」～「A-8」で行われます。放送スケジュール表で送信チャンネルを確認して下さい。
- ②: IRD右側の扉を開け、先のとがったもので、穴の中にあるリセットボタンを押して下さい。
- ③: IRDのメニュー画面から、初期設定→受信設定を選び、アンテナの設定状況が合っているか確認して下さい。(通常はコンバーター電源はOn、ローカル周波数は11.2GHz)
- ④: 送信局・受信局地域の天候が悪い場合、電波が減衰し受信できない場合があります。
- ⑤: アンテナに着雪していませんか。(冬期)
- ⑥: ①～⑤が正常な場合はアンテナ不良、アンテナの方向ずれ、IRDの故障等が考えられます。e1-Net受信局保守会社又は、つくばサポートセンターへご連絡下さい。

◎IRDの受信レベルは30以上の場合

A: モニターテレビの切り換えがe1-Net用IRDになっていないことが考えられます。テレビ・ビデオ・AVスイッチの切り換え、ピンコードの接続を確認して下さい。

Q: モニター画面に「この番組は視聴できません」の表示が出ています。

A: 受信局が指定されている放送であり、指定受信局以外は放送を見ることができません。受信局に指定されている場合はつくばサポートセンターへ連絡して下さい。

Q: 映像が正常だが音声が出ません。(IRDの「TV-独立」の独立ランプが点灯)

A: IRDモニターまでの音声用ピンコードの接続を確認して下さい。音声切り換えが違っています。リモコンの音声切り換えボタンを押して下さい。

■一斉データ送信機能・番組表について

Q: 番組の放送時間がわかりません。

A: 放送スケジュールは毎週火曜日16:45～17:15の一斉データ送信で受信して下さい。(詳細は操作シートに載っています)イントラPCの無い場合は一斉データ送信の受信はできませんのでイントラPCの設置が必要です。



Q: データの受信の方法がわかりません。

A: 一斉データ送信前(毎火曜日16:45)にダウンロードサーバー(パソコンの一斉データ受信ソフト)を立ち上げて下さい。(詳細は操作シートに載っています)

Q: データの受信ができません。

◎IPアドレスを操作シートと同一にした)

A: 操作シートのIPアドレスは一例です。受信局毎にIPアドレスは違いますので、つくばサポートセンターで確認し、正しいIPアドレスをインプットして下さい。

Q: 電話回線を繋がないでも一斉データ送信の受信はできますか?

A: 一斉データ送信は電話回線が無くても受信可能です。今後、電話回線を使うイントラサービスの開始が予定されていますのでイントラサービスを希望する場合はアナログの回線を用意して下さい。

Q: 一斉データ送信日が休日の時受信する方法はありますか?

A: 送信前日に受信のためのダウンロードサーバーを立ち上げておいてもかまいません。(PCを省電力モードの設定している場合は必ず解除して下さい。)

■衛星受信機受信状態確認・受信レベルについて

Q: 現在のアンテナレベルはどのようにして見るのですか?

A: リモコンのレベルボタンを押しますと、IRDのチャンネル表示がアンテナレベルに切り換わります。又モニターテレビの画面下部にもレベル表示がされます。右の数値はレベル確認中の最高値、左はその時々レベルを表示します。もう一度レベルボタンを押すとチャンネル表示に戻ります。

Q: 画面上に周波数表示が出て画面が見にくい。

A: リモコンの「画面表示」ボタンを押して下さい。チャンネル、周波数表示は消えます。

エル・ネット「オープンカレッジ」 10月放送日（予定）

講座の内容、放送の日時は変更されることがあります。ご了承ください。

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
3日 (火)	奈良教育大学（108-01）10:00～11:30 『“やまと”から知的資源の開放—日本・世界—』①「世界遺産とまちづくり」 淡野 明彦（奈良教育大学教授）
5日 (木)	仙台大学（032-01）10:00～11:00 『スポーツと健康・福祉』①「スポーツ・レクリエーションのすすめ」 本多 弘子（仙台大学教授）
6日 (金)	武蔵野女子大学（026-01）10:00～11:30 『グローバル化する現代社会』①「国境を越える「知」」 潮木 守一（武蔵野女子大学教授）
7日 (土)	中央大学（030-01）10:00～11:00 『いきいきと生きる』①「いきいきと生きる」 廣岡 守穂（中央大学教授）
10日 (火)	奈良教育大学（108-01）10:00～11:30 『“やまと”から知的資源の開放—日本・世界—』②「久留島武彦と奈良」 松川 利広（奈良教育大学教授）
11日 (水)	専修大学（011-01）10:00～11:30 『現代日本の非行—犯罪心理学的視点から—』①「日本の非行」 森 武夫（専修大学名誉教授）
12日 (木)	仙台大学（032-01）10:00～11:00 『スポーツと健康・福祉』②「青少年問題とスポーツ」 勝田 隆（仙台大学助教授）
13日 (金)	武蔵野女子大学（026-01）10:00～11:00 『グローバル化する現代社会』②「アメリカ極支配と世界」 浅井 泰範（武蔵野女子大学教授）
17日 (火)	奈良教育大学（108-01）10:00～11:00 『“やまと”から知的資源の開放—日本・世界—』③「大洋の小さな小さな植物」 西田 史朗（奈良教育大学教授）

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
18日 (水)	聖学院大学（025-01）10:00～10:45 『21世紀日本の課題』①「少子社会の家族と子ども」 本田 和子（聖学院大学教授）
19日 (木)	仙台大学（032-01）10:00～10:45 『スポーツと健康・福祉』③「一般成人・高齢者の生活とスポーツ」 佐藤 佑（仙台大学教授）
20日 (金)	武蔵野女子大学（026-01）10:00～11:00 『グローバル化する現代社会』③「経済のポータレス化と企業の国際戦略」 高村 寿一（武蔵野女子大学教授）
21日 (土)	中央大学（030-01）10:00～11:30 『いきいきと生きる』②「高齢社会における福祉と女性」 廣岡 守穂（中央大学教授）
24日 (火)	奈良教育大学（108-01）10:00～11:00 『“やまと”から知的資源の開放—日本・世界—』④「川の水質と水辺の風景」 松村 竹子（奈良教育大学教授）
25日 (水)	専修大学（011-01）10:00～11:30 『現代日本の非行—犯罪心理学的視点から—』②「非行の要因」 森 武夫（専修大学名誉教授）
26日 (木)	仙台大学（032-01）10:00～11:15 『スポーツと健康・福祉』④「福祉レクリエーション」 小池 和幸（仙台大学講師）
27日 (金)	愛知教育大学（110-01）10:00～11:30 『作図ツールとインターネットで数学の授業を変えよう』 飯島 康之（愛知教育大学助教授）
31日 (火)	奈良教育大学（108-01）10:00～11:00 『“やまと”から知的資源の開放—日本・世界—』⑤「やまものの美とところ」 脇田 宗孝（奈良教育大学教授）

エル・ネット「オープンカレッジ」 11月放送日（予定）

講座の内容、放送の日時は変更されることがあります。ご了承ください。

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
1日 (水)	聖学院大学（025-01）10:00～10:45 『21世紀日本の課題』②「コミュニティー福祉社会を実現する」 牛津 信忠（聖学院大学教授）
1日 (水)	琉球大学（101-01）14:00～15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』①「方言からみた自然観—ニシは冬の季節風—」 小島 瓊禮（琉球大学教授）
2日 (木)	跡見学園女子大学（029-01）10:00～11:30 『世界の文化と女性』①「女性たちが男性たちを越えた時—アメリカ詩の現在—」 クリストファー・ドレイク（跡見学園女子大学教授）
4日 (土)	中部大学（033-01）10:00～11:00 『日米の表現法の違い』①「源氏物語絵巻」 小中 陽太郎（中部大学教授）

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
7日 (火)	奈良教育大学（108-01）10:00～11:40 『“やまと”から知的資源の開放—日本・世界—』⑥「地域に開かれた特色ある学校づくり—学校評議員制、自己評価を通して—」 八尾坂 修（奈良教育大学教授）
8日 (水)	専修大学（011-01）10:00～11:30 『現代日本の非行—犯罪心理学的視点から—』③「青年期の非行」 森 武夫（専修大学名誉教授）
8日 (水)	長崎大学（118-01）16:30～18:00 『まちづくりと生涯学習』①「地域活性化とまちづくり」 新田 照夫（長崎大学助教授）
8日 (水)	琉球大学（101-01）14:00～15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』②「新年とはなにか—冬作型農業の歳時観—」 小島 瓊禮（琉球大学教授）

エル・ネット「オープンカレッジ」 11月放送日（予定）

講座の内容、放送の日時は変更されることがあります。ご了承ください。

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
9日 (木)	跡見学園女子大学 (029-01) 10:00~11:30 『世界の文化と女性』②「炎の女ふたたび—カフカの恋人ミレナー」 飯島 周 (跡見学園女子大学教授)
10日 (金)	札幌学院大学 (024-01) 10:00~11:30 『現代社会の中の心理学』①「科学技術と心のひすみ」 池田 光幸 (札幌学院大学教授)
14日 (火)	名古屋商科大学 (018-01) 10:00~11:30 『現代中国入門』①「現代中国の成り立ちから改革開放の現状—そして将来への展望—」 岡田 臣弘 (名古屋商科大学教授)
15日 (水)	聖学院大学 (025-01) 10:00~10:45 『21世紀日本の課題』③「変貌する時代と人間の倫理」 絹沼 裕子 (聖学院大学教授)
15日 (水)	長崎大学 (118-01) 16:30~18:00 『まちづくりと生涯学習』②「市民参加のまちづくり」 新田 照夫 (長崎大学助教授)
15日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00~15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』③「稲作儀礼の動物供犠—2月に牛肉を供える神事—」 小島 瓊禮 (琉球大学教授)
16日 (木)	跡見学園女子大学 (029-01) 10:00~11:30 『世界の文化と女性』③「フランス文化における女性の光と影—A. フルトン『ナジャ』の女性をめぐる—」 笹本 孝 (跡見学園女子大学教授)
17日 (金)	札幌学院大学 (024-01) 10:00~11:30 『現代社会の中の心理学』②「子どもの発達と家族」 奥平 洋子 (札幌学院大学教授)
18日 (土)	中部大学 (033-01) 10:00~11:00 『日米の表現法の違い』②「平治物語絵巻」 小中 陽太郎 (中部大学教授)
18日 (土)	群馬県立女子大学 (202-01) 14:00~15:10 『日本文化の諸相』①「中世の対外意識」 市川 浩史 (群馬県立女子大学助教授)

日付	実施大学／講座コード／時間／内容／講師
21日 (火)	徳島大学 (115-01) 10:00~11:30 『職人に学ぶ—技の伝承と文化—』①「伝統技能に見る職人の技と文化」 森 和夫 (徳島大学教授)
22日 (水)	専修大学 (011-01) 10:00~11:30 『現代日本の非行—犯罪心理学的視点から—』④「今日の非行問題からみた社会的課題」 森 武夫 (専修大学名誉教授)
22日 (水)	長崎大学 (118-01) 16:30~18:00 『まちづくりと生涯学習』③「まちづくりの担い手育成事業と大学の生涯学習事業の連携」 新田 照夫 (長崎大学助教授)
22日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00~15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』④「神と社会組織—女の神職と男の頭屋制—」 小島 瓊禮 (琉球大学教授)
24日 (金)	札幌学院大学 (024-01) 10:00~11:30 『現代社会の中の心理学』③「思春期の心—悩みを抱える力を育てるには—」 徳田 仁子 (札幌学院大学助教授)
28日 (火)	徳島大学 (115-01) 10:00~11:30 『職人に学ぶ—技の伝承と文化—』②「現代に生かす技の伝承と文化」 森 和夫 (徳島大学教授)
29日 (水)	聖学院大学 (025-01) 10:00~10:45 『21世紀日本の課題』④「対話と協調の時代」 金子 晴男 (聖学院大学教授)
29日 (水)	広島大学 (117-01) 16:30~18:00 『放射線と放射能、四方山話』①「放射線と放射能」 石川 正純 (広島大学助手)
29日 (水)	琉球大学 (101-01) 14:00~15:30 『民俗学：亜熱帯から逆照射—琉球文化からみた日本文化の古層—』⑤「誕生の儀礼と日本神話—生きている神話の世界—」 小島 瓊禮 (琉球大学教授)
30日 (木)	跡見学園女子大学 (029-01) 10:00~11:30 『世界の文化と女性』④「中国の女性たち—近代から現代へ—」 池上 貞子 (跡見学園女子大学教授)

◆テキスト申込書◆

ふりがな ご氏名	電話	FAX
ふりがな ご住所 〒		メールアドレス

■開講 平成12年10月～平成13年2月 51大学/55講座 ■受講料 無料
 ■テキスト代 実費（送料別）。ただし1講座につき100名までモニターとして無料（送料共）となります。モニターは受講後、簡単なアンケートにお答えいただきます。

●受講希望の講座コード及び講座名をご記入ください。テキストは実施講座ごとに作成します。

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

FAX送付先：03-3595-1297